日本消化器癌発生学会
News Letter
http://plaza.umin.ac.jp/~jsgc/
2001 No.1

第12回学会報告

第12回日本消化器癌発生学会は小俣政男当番会長にて９月６～７日の２日間にわたり東京のシェーンバッハ・サボーで開催された。基調テーマであるポストゲノム時代；新たな消化器癌研究の幕明けというコンセプトのもとに、シンポジウム２本、パネルディスカッション４本、ワークショップ３本の主題を柱に、これに関連した内容の特別講演や各種セミナーが組まれた。本学会はコンパクトにまとまっており、学術集会に参加することで自分の専門領域のみならず広く消化器各臓器の癌に対する知見が吸収できることが特徴である。また、今回は久々の内科系の会長で肝臓を中心とした専門家であり、本学会定番の消化管の癌のみならず会長講演や近畿大学の工藤先生をはじめとした各種セミナーに見られたように肝臓癌関連の領域が盛り込まれ、幅広い内容となった。

今年２月にヒト遺伝子の塩基配列が明らかになり、その遺伝子数は三万数千であることが判明した。これをうけて、消化器癌でどのような遺伝子が発癌に関連するかを調べるDNA-chipによるRNA 発現パターン解析が最近のトピックスである。シンポジウムではこれをとりあげ、DNAアレイによる最新の解析知見についての発表・討議が行われた。翌日のセミナーではかずさヘリックス研究所の関先生によりこの領域の最新情報が得られ、現在のシステムでは遺伝子発現パターンの認識はできても定量には至らない点など、会員の知りたい内容に関する質疑応答がなされ有意義な講演であった。もう一つのシンポジウムの主題はヘリコバクター・ピロリと胃癌に関する知見であり、その内容は実験発癌から実際の臨床に及ぶ幅広いものであった。活発な討論は大原理事長をも巻き込み、理事長自らヘリコバクター・ピロリ発癌に対する考えを披露されるに至った。実際の発癌スクリーニングのための臨床応用に関してはセミナーにて東邦大学の三木先生が講演された。ヒト遺伝子の塩基配列のもう一つのインパクトは、同じヒトで同じ疾患でも個体差が出るが、これに関連すると考えられるSNP (Single Nucleotide Polymorphism)の解析である。今回ワークショップでとりあげ、またセミナーではヒュービットジェノミクス社の村松先生が臨床応用の展開として講演された。最近は細胞内情報伝達機構の知見をもとに、特定の部位を分子標的により抑制する画期的新薬の開発が話題である。この点については今回の主題で取り上げるには至らなかったが、東京大学分子細胞生物研究所長の鶴尾先生に招待講演として最近の研究成果を聞くことができた。会場に関しては豪華でこそないが参加会員数に応じた適切な大きさであり、また広い休憩スペースを設けてゆっくり話し会える環境を提供したことは良かったと思われる。

今回は本学会で初めてホームページによる演題募集を行った影響や当事務局の各種予定アナウンスの遅れなどのためめか、残念ながら例年と比較して演題応募は少なかった。しかし各演題の発表・討論時間を十分に確保することができ、会場では活発な議論が繰り広げられ、盛会裏に終えることができた。

目　次

第12回学会報告　東大消化器内科 ……………1
理事会議事録 ……………………………………2
委員会報告
　財務委員会　会計年度変更
　編集委員会　impact factor
　　　　　　　掲載論文一覧
会　則 ……………………………………3～4
役員、評議員一覧 ………………………………4
委員会報告 ………………………………………5
　会則委員会・財務委員会
　編集委員会
　Gプロジェクト委員会
掲載論文一覧 ……………………………………6
第３回国際会議案内 ……………………………7
第１３回学会会告 ………………………………8
編集後記 …………………………………………8

/理/事/会/議/事/録/

2001年9月5日
平成13度度日本消化器癌発生学会 理事会議事録

1）庶務報告

平成13年8月31日現在の会員数は951名で，内訳は名誉会員6名，特別会員17名，監事2名，理事12名，評議員100名，一般会員797名，賛助会員17名である．

2）会則委員会報告（小川理事）

1．これまでの規約委員会という名称を会則委員会と名称を変更することが承認された．
2．会則第7章第21条第2項を改正し，平成14年度から会計年度を毎年6月１日から翌年５月31日までとする．それまでの移行措置として，平成13年度の会計年度を前期（平成13年１月１日〜平成13年9月30日）と後期（平成13年10月１日〜平成14年５月31日）にわけ，平成13年度（1年5ヶ月間）の会計は前期・後期のそれぞれの期間内での収支とする「経過措置に関する規則（案）」が提案され承認された．
3．会則施行細則第１号第９節第１項をあらため，「本会の事務局を当分の間は東京大学大学院医学系研究科・消化管外科におく」とする改正案が承認された．

3）財務委員会報告（磨井理事，代・上西理事）．

平成12年度収支決算表，平成13年度前期・後期収支予算案が出され承認された．

4）役員選考委員会報告（内田理事）

理事会として承認した役員・評議員は以下の通りである．

特別会員：梶山　梧朗，栗原　稔，船曳　孝彦，藤田　力也，三輪　剛の5名の先生．
理　　事：三輪　晃一，門田　守人，安井　弥の３名の先生．
評 議 員：浅尾　高行，飯石　浩康，江上　寛，太田　慎一，大平　雅一，加藤　俊一，国安　弘基，澤田　鉄二，島田　光生，松原　長秀の10名の先生．

5）編集委員会報告（上西理事）．

1．第10回・第11回日本消化器癌発生学会における優秀演題のJECCRでの論文掲載状況・進捗状況が報告された．
2．JECCR編集長の交代にともない，JECCRとJSGCとの協力関係に関する契約を再度かわすことが提案され，編集委員会として検討することとなった．

6）国際委員会報告（井藤理事）．

第3回消化器発癌国際会議（2002年３月13日〜16日，ミュンヘン工科大学Hoefler教授）における日本からのGuest Speakerは今井　浩三，小俣　政男，立松正衛の３教授の予定である．国際会議の演題募集締め切りは平成13年11月15日である．

7）Gプロジェクト委員会報告（今井理事）．

臓器別のTNMG分類を作る本プロジェクトの第１歩として，さまざまな分子・遺伝子マーカーがTNMG分類として使用可能かどうか検討する．そのために各臓器に共通の，あるいは特異的な分子・遺伝子マーカーを，学会総会等で報告し検討することとなった．

8）総務委員会報告（恩田理事）．

学会広報活動として，日本消化器癌発生学会のニュースレターを発行することとなり，平成13年内に第1号を発行する予定である．

9）学会準備状況報告

第13回日本消化器癌発生学会（平成14年９月５日〜６日，千里ライフサイエンスセンター）の準備状況が大阪大学病態制御外科門田　守人教授より報告された．
特別講演の演者としてミシガン大学のDr. Stephan J. Weissを予定している．

10）学会会長推薦

第14回日本消化器癌発生学会会長に，金沢大学三輪晃一教授を推薦し承認した．
以上の理事会承認事項は引き続いて開催された，評議委員会，総会にて承認された．

●日本消化器癌発生学会 会則

第１章　総則
第１条　名称
本会は日本消化器癌発生学会（The Japanese Society for Gastroenterological Carcinogenesis、以下、本会と略記）と称する。
第２章　目的および事業
第２条　目的
本会は、日本消化器癌発生研究会の業績を継承し、消化器癌の発生および進展に関する研究を行い、消化器癌の診断、治療および予防の向上、発展を図り、人類の福祉に寄与することを目的とする。
第３条　事業
本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(1)　年一回の総会、学術集会の開催
(2)　機関誌および学術図書などの刊行
(3)　内外の関係学術団体との連絡および提携
(4)　その他、本会の目的を達成するため必要な事業
第３章　会員
第４条　種別
本会の会員は次のとおりとする。
(1)　正会員　本会の目的に賛同して入会したもの
(2)　名誉会員　学術集会会長の経験者、永年理事をつとめた者ならびに本会に特別の功労のあったものの中から、理事長が理事会および評議員会の議を経て推薦したもの
(3)　特別会員　永年評議員を務めたもの、ならびに本会に大なる功労のあったものの中から、理事長が理事会および評議員会の議を経て推薦したもの
(4)　賛助会員　本会の目的に賛同し、本会の発展に協力を希望する個人、法人あるいは団体とし、理事会の推薦を得て評議員会の承認を経たもの
第５条　入会
本会に入会を希望するものは、所定の手続きを経て本会事務局に申し込み、理事会の承認を受けなければならない。
第６条　会費
１．会員は、総会において別に定めるところにより会費を納入しなければならない。
２．名誉会員および特別会員は、会費を納めることを要しない。
第７条　資格の喪失
会員は、次の事由によって資格を喪失する。
(1)　退会したとき
(2)　死亡したとき
(3)　除名されたとき
第８条　退会
会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届を理事長に提出しなければならない。
第９条　除名
会員が次の各号の一つに該当するときは、理事会の議決を経て理事長が除名することができる。ただし、理事会で弁明する機会をあたえなければならない。
(1)　本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき
(2)　本会の会員としての義務に違反したとき
(3)　会費を２年以上滞納したとき
第10条　会費等の不返還
会員が既に納入した会費、その他拠出金は、これを返還しない。
第４章　役員等および職員
第11条　役員
本会には次の役員をおく。

(1)	理事長	１名
(2)	理事	10名以上15名以内
(3)	評議員	正会員の10％以内
(4)	監事	２名
(5)	学術集会会長（以下、会長）	１名
(6)	次期学術集会会長（以下、次期会長）	１名

第12条　役員の選出
１．理事長、理事、評議員および監事は別に定めるところにより選出される。
２．会長は、理事会の推薦により評議員会の議を経て、総会の承認を受ける。
３．次期会長は、理事会の推薦により評議員会の議を経て、総会の承認を受ける。
第13条　役員の職務
１．理事長は、本会を代表し会務を統括する。
２．理事、会長、次期会長は、理事会を組織し会務の審議および本会の運営にあたる。
３．評議員は、評議員会を組織し本会の運営に必要な事項について審議する。
４．監事は、本会の会計監査および会務の監査にあたる。
５．会長は学術集会を主宰する。
６．次期会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠あるときはその職務を代行する。
第14条　職員
１．本会の事務を処理するため職員若干名を置くことができる。
２．職員は有給とし、理事会の議を経て理事長がこれを任免する。
第５章　会議
第15条　種別
本会の会議は総会、評議員会および理事会とする。
第16条　総会
１．総会は、正会員、特別会員および名誉会員をもって構成する。
２．理事長は、原則として年一回の総会を招集し、理事会および評議員会の決定事項を報告する。
３．総会は、この会則に別に定めるものの他、次の事項を議決する。
(1)　事業計画および収支予算
(2)　事業報告および収支決算
(3)　その他、本会の運営に関する重要事項
４．総会における議事は、総会出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる.
５．総会の議長は理事長とする。第17条　評議員会
１．理事長は、必要に応じて評議員会を召集する。
２．理事長は、評議員の過半数または監事の請求がある時は評議員会を召集しなければならない。
３．評議員会の成立には、委任状を含めて評議員の過半数の出席を要し、議事の決定は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
４．評議員会の議長は会長とする
第18条　理事会
１．理事長は、必要に応じて理事会を召集する。
２．理事長は、評議員の過半数または監事の請求がある時は理事会を召集しなければならない。
３．理事会の議長は理事長とする。
第19条　学術集会
学術集会は、定例集会のほか、時宜に応じてこれを開催することができる。
第６章　委員会
第20条　委員会および委員
１．本会は、その業務を行うために必要とする委員会をおくことができる。
２．委員は、理事会の議を経て理事長がこれを委嘱する。
第７章　会計
第21条　会計
１．本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれにあてる。
２．本会の会計年度は、毎年6月１日から翌年5月31日までとする。
第８章　会則の変更
第22条　会則の変更
本会の会則は、理事会および評議員会の議を経て総会の承認を得なければ変更することは出来ない。
第９章　解散
第23条　解散および残余財産の処分
１．本会は、理事会および評議員会においてそれぞれ構成員の3/4以上の同意を得たうえ、総会において正会員

の2/3以上の同意を得て解散することが出来る。

2. 解散に伴う残余財産の処分は、理事会および評議員会の議決と総会の承認を得て行う

第10章 補足

第24条

本会は、日本消化器癌発生研究会の事業および財産を継承する。

第25条

本会則の施行に必要な細則は、理事会および評議員会の議決を経て別に定める。

付則

1. 本会則は平成9年9月4日より施行する。
2. 本会則は平成13年9月7日一部変更した。

●役員、評議員一覧

（平成13年9月7日現在）

理 事 長　大原 毅

理 事（15名）

井藤 久雄	今井 浩三	内田 雄三	大原 毅
小川 道雄	小俣 政男	恩田 昌彦	上西 紀夫
杉町 圭蔵	田原 榮一	寺野 彰	磨伊 正義
三輪 晃一	門田 守人	安井 弥	

会 長　門田 守人

次期会長　三輪 晃一

監 事（2名）

青木 照明　二川 俊二

名誉会員（6名）

金澤暁太郎	下山 孝	杉村 隆	曽和 融生
長町 幸雄	長与 健夫		

特別会員（22名）

磯野 可一	岩永 剛	岡島 邦雄	小越 章平
梶山 悟朗	栗原 稔	佐藤 栄一	佐藤 俊一
斉藤 昌三	斉藤 利彦	曽我 淳	高橋 俊雄
船曳 孝彦	馬場 正三	比企 能樹	廣田 映五
福富 久之	藤田 力也	三輪 剛	武藤 泰敏
安富 正幸	山川 達郎		

評 議 員 名 簿（103名） 50音順

愛甲 孝	青木 照明	浅尾 高行	朝倉 均
浅原 利正	飯石 浩康	石川 隆俊	板橋 正幸
井藤 久雄	伊藤喜久治	伊東 文生	今井 浩三
今村 正之	内田 雄三	江上 寛	江角 浩安
太田 慎一	大原 毅	大平 雅一	小川 道雄
沖永 功太	小俣 政男	恩田 昌彦	貝原 信明
笠原 正男	兼松 隆之	加藤 俊一	金丸龍之介
上西 紀夫	川口 実	北島 政樹	木村 健
国安 弘基	久保田啓朗	熊谷 一秀	倉本 秋
桑野 信彦	桑野 博行	高後 裕	小西 陽一
小西 文雄	佐治 重豊	澤田 鉄二	塩崎 均
島田 信也	嶋田 紘	嶋田 裕	島田 光生
嶋本 文雄	白水 和雄	杉町 圭蔵	砂川 正勝
炭山 嘉伸	高橋 豊	竹之下誠一	田澤 賢次
竜田 正晴	立松 正衞	田中 雅夫	田中 紀章
谷田 憲俊	田原 榮一	辻谷 俊一	寺野 彰
藤 也寸志	峠 哲哉	徳永 昭	中島 孝
長嶋 和郎	仲田 文造	名川 弘一	名倉 宏
成澤 富雄	新津洋司郎	西野 輔翼	野口 剛
服部 隆則	平川 弘聖	平田 公一	平山 廉三
福島 昭治	藤盛 孝博	二川 俊二	磨伊 正義
前原 喜彦	松川 正明	松倉 則夫	松原 長秀
松野 正紀	松本 由朗	真船 健一	三木 一正
源 利成	峯 徹哉	三輪 晃一	武藤徹一郎
棟方 昭博	森 正樹	門田 守人	安井 弥
横崎 宏	綿谷 正弘	渡辺 敦光	

事務局幹事（2名）

清水 伸幸　下山 省二

Roche

5-HT3受容体拮抗型制吐剤

劇薬、指定医薬品、要指示医薬品

薬価基準収載

カイトリル® 注射液 錠1mg,錠2mg 細粒

Kytril®

塩酸グラニセトロン製剤

注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

※効能・効果、用法・用量、用法・用量に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

販売元（資料請求先）
日本ロシュ株式会社
〒105-8532 東京都港区芝2-6-1
http://www.nipponroche.co.jp/
問合せTEL 0120-642-644

輸入・製造元
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15

Targeting Cancer With Care
Roche Oncology

2001年6月作成

主な委員会報告

会則委員会・財務委員会

（理事会・評議員会・総会承認事項）

平成13年4月の理事会における提案をうけ，毎年1月1日から同年12月31日までを会計年度とするこれまでの会則第7章第21条第2項を改正し，会計年度を毎年6月1日から翌年5月31日までとし，平成14年度から適用いたします．それにともない，平成13年度会計年度が平成13年1月1日から平成14年5月31日までの1年5ヶ月間となるため，暫定移行措置として平成13年度の会計年度を前期（平成13年1月1日～平成13年9月30日）と後期（平成13年10月1日～平成14年5月31日）にわけ，平成13年度の会計は前期（9ヶ月）・後期（8ヶ月）のそれぞれの期間内での収支といたします．それをうけ，平成13年度前期・後期収支予算案がそれぞれ承認されました．

編集委員会

JECCRのImpact factor上がる！

現在，日本消化器癌発生学会総会で発表された優秀演題には，本学会のOfficial collaborative JournalであるJournal of Experimental and Clinical Cancer Research (JECCR)への積極的な論文投稿をすすめておりますが，多数の優秀な論文が掲載された結果，2000年のJECCRのImpact factorが0.478から0.54に上昇しました．会員各位におかれましては，今後も引き続き論文投稿をお願いするとともに，JECCRのImpact factorをさらにあげるために，論文執筆の際に積極的にJECCRの論文を引用していただくようお願いいたします．なお2001年第2号（夏号）までのJECCRでの掲載論文は別表に掲載してあります．

Gプロジェクト委員会

Gプロジェクト始まる！

従来のTNM分類に遺伝子(G)分類を加えた臓器別のTNMG分類を作ることを最終目標としたGプロジェクト委員会が発足いたしました．その第１歩として，すでにわかっている分子・遺伝子マーカー（例えばp53など）や，最新の分子・遺伝子マーカーがTNMG分類として使用可能かどうか検討するために，学会総会でGプロジェクトに関連するセッションなどを設けて討論したり，他学会における成果も参考にしながら，各臓器に共通する，あるいは各臓器特異的な分子・遺伝子マーカーを検討していきます．会員各位におかれましては，本学会の特徴である臓器・専門別の横断的なつながりを生かし，討論への積極的な参加をお願いいたします．

JECCR 表紙

著　者	所　属	論文名	掲　載
横崎　　宏	広島大学第１病理	Allele frequency of D1S191 microsatellite locus in Japansese people	vol.18　, 1999, 99-101
山本　博幸	札幌医科大学第１内科	Frequency Bax frameshift mutations in gastric cancer with high but not low microsatellite instability	vol.18　, 1999, 103-106
下山　省二	東京大学消化管外科	Basal expression and cytokine induction of intercellular adhesion molecule-1 in human pancreatic cancer cell lines.	vol.18　, 1999, 107-110
島田　信也	熊本大学第２外科	Carcinogenesis of intestinal-type gastric cancer and colorectal cancer is commonly accompanied by expression of brain (fetal)-type glycogen phosphorylase	vol.18　, 1999, 111-118
藤田　幹夫	独協医科大学第２病理	Semi quantitative procedure for telomeric repeat amplification protocol (TRAP) assay in colorectal carcinomas	vol.18　, 1999, 119-124
尾崎　　明	理化学研究所	Inhibitory effect of intestinal bacteria on spontaneous multiple polyps in the small intestine of gnotobiotic BALB/c mice.	vol.18　, 1999, 255-258
成澤　富雄	筑波大学臨床医学系消化器内科	Inhibitory effect of ursodeoxycholic acid on N-Methyl-nitrosourea-induced colon carcinogenesis and colonic mucosal telomerase activity in F344 rats	vol.18　, 1999, 259-266
土井　俊彦	国立病院四国がんセンター	Serum soluble Fas antigen in gastric MALT (mucosa-associated lymphoid tissue) lymphoma patients	vol.18　, 1999, 343-346
松崎　靖司	筑波大学臨床医学系消化器内科	The role of previous infection of hepatitis B virus in HBs antigen negative and anti-HCV negative Japansese patients with hepatocellular carcinoma: Etiological and molecular biological study	vol.18　, 1999, 379-390
中森　正二	大阪大学第２外科	Molecular mechanism incolved in increase expression of Sialyl Lewis antigens in ductal carcinoma of the pancreas	vol.18　, 1999, 425-432
田村　和郎	兵庫医科大学遺伝子	Molecular and clinical study of familial adenomatous polyposis for genetic testing and management	vol.18　, 1999, 519-529
川端　邦裕	岐阜大学第１病理	Supression of N-nitrosomethylbenzylamine-induced rat esophageal tumorigenesis by dietary feeding of auraptene	vol.19　, 2000, 45-52
小山　文一	奈良県立医大第１外科	Enzyme/prodrug gene therapy for human colon cancer cells using adenovirus-mediated transfer of the E. coli cytosine deaminase gene driven by the CAG promotor associated with 5-fluorocytosine administration	vol.19　, 2000, 75-80
藤　也寸志	九州ガンセンター消化器外科	Molecular analysis of a candidate metastasis-associated gene MTA1: Possible interaction with histone deacetylase 1	vol.19　, 2000, 105-111
辻谷　俊一	鳥取大学第１外科	Expression of thymidylate synthase in relation to survival and chemosensitivity in gastric cancer patients	vol.19　, 2000, 189-195
渡辺　敦光	広島大学原爆放射能医学研究所環境変異	Grafting of stomach tissue into the duodenum in F344 rats results in chimeric crypts and tumor development	vol.19　, 2000, 207-210
山形　健一	昭和大学豊洲病院外科	Experimental study of lymphogeneous peritoneal cancer discrimination : Migration of fluorescent labelled tumor cells in a rat model of mesenteric lymph vessel obstruction	vol.19　, 2000, 211-217
伴場　博己	埼玉医大医療センター第1内科	Effect of prostaglandin E1 on vascular endothelial growth factor production by human macrophages and colon cancer cells	vol.19　, 2000, 219-223
広田　昌彦	熊本大学第２外科	Augmentation of UDP-GalNAc: Fuc alpha1-2Gal alpha1-3 N-Acetylgalactosaminyl transferase activity in nitrosamine-induced hamster pancreatic cancers	vol.19　, 2000, 235-239
A. Ougolkov	金沢大学がん研究所外科	Altered expression of beta-catenin and c-erbB-2 in early gastric cancer	vol.19　, 2000, 349-355
徳永えり子	九州大学附属病院腫瘍センター	Application of quantitative RT-PCR using TaqMan technology to evaluate the expression of CK18 mRNA in various cell lines	vol.19　, 2000, 375-381
西田　俊朗	大阪大学第１外科	Clinicopathological features of gastric stromal tumors	vol.19　, 2000, 417-425
北島　和夫	長崎大学第２外科	Linkage of persistent cholangitis after bilioenterostomy with biliary carcinogenesis in hamsters	vol.19　, 2000, 453-458
前田　迪郎	鳥取大学第１外科	Mutated p53 in tumors, mutant p53 and p53-specific antibodies in the circulation in patients with gastric cancer	vol.19　, 2000, 489-495
大野　和子	東京大学大学院農学生命科学研究所	Effect of bacterial metabolism in the intestine on colorectal tumors induced by E1,2-dimethylhydrazine in transgenic mice harboring human prototype c-Ha-ras genes	vol.20　, 2001, 51-56
西川　秋佳	国立医薬品食品衛生研究所	Reporter gene transgenic mice as a tool for analyzing molecular mechanisms underlying experimental carcinogenesis	vol.20　, 2001, 111-115
辻　　晋吾	大阪大学大学院病態制御内科	Cyclooxygenase-2 upregulation as a perigenetic changes in carcinogenesis	vol.20　, 2001, 117-129
金沢　昌満	久留米大学外科	Significance of cysteine rich transcription factor (CRTF) in the synthesis of tissue inhibitor of Metalloproteinases 1 (TIMP 1) in gastrointestinal cancers.	vol.20　, 2001, 145-151
松岡　　翼	大阪市立大学第１外科	Effect of matrix metalloproteinase inhibitor on a lymph node metastatic model of gastric cancer cells passaged by orthotopic implantation	vol.20　, 2001, 213-218
福井　里佳	札幌医科大学第１外科	Adenosquamous carcinoma of the rectum: Report of two cases	vol.20　, 2001, 293-296
秦　　史壮	札幌医科大学第１外科	Colorectal surgery in the elderly	

第３回国際会議開催のお知らせ

3rd International Conference on
Gastroenterological Carcinogenesis開催のお知らせ

International Society of Gastroenterological Carcinogenesis (ISGC)は，1996年の1st International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis（広島市）の成功を受けて設立され，1999年には２回目の国際会議がドイツ、ウルムにおいて開催されました。その第３回国際会議が，来る2002年3月13日（水）から16日（土），Prof. H. Hoefler会長のもと，ミュンヘンにて行われる予定です。以下に概要をお知らせいたしますとともに，会員の皆様方多数のご参加をお願い申し上げます。

会　期：2002年3月13日（水）～16日（土）
会　場：Technische Universitaet Muenchen
　　Lecture Hall N 1190, Entrance: Theresienstrasse
会　長：Prof. H. Hoefler
　　Chairman of the Institute of Pathology
　　Technische Universitaet Muenchen
プログラム：詳細はホームページ
http://www.path.med.tum.de　にて公開中。以下の項目につき，演題募集中です。

Cancer prevention
Molecular mechanisms of carcinogenesis and environmental factors
- Esophagus
- Stomach
- Pancreas
- Liver
- Colorectum

Hereditary cancer syndromes
- Diagnosis (clinical, pathologic, molecular genetic)
- Genetic counseling
- Treatment

Preneoplastic lesions and early cancer
- Genetics
- Morphology and differential diagnosis
- Clinical consequences

Prognostic factors
- Established factors and therapeutic consequences
- Current clinical studies for new factors
- Strategies in research
- Sentinel lymph nodes in GI tumors (technical aspects and clinical relevance)

Microdissemination of tumor cells, micrometastasis and minimal residual disease
- Methods and reliability
- Clinical consequences

Therapy
- Response prediction
- Results from recent studies
- Reports from current studies
- New strategies

一般演題抄録受付，参加登録，宿泊予約：
　インターネット http://www.path.med.tum.de にて可。
　　（一般演題抄録〆切は11月15日）

参加費	事前登録（1/1/2002まで）	1/1/2002以降
ISGC会員	EUR 150,00	EUR 180,00
ISGC非会員	EUR 250,00	EUR 280,00

　尚、日本消化器癌発生学会会員は¥3,000にてISGCの会員になることができます。

学会運営，参加登録，宿泊予約問い合わせ先：
　EMC Event & Meeting Company GmbH
　Dachauer Strasse 44a, D-80335Munich
　Tel:　++49-89-549096 31
　Fax:　++49-89-549096 25
　e-mail: kargar@emc-event.com

　ISGCへのご入会を希望される方は，以下にご連絡ください。
　〒734-8551　広島市南区霞1-2-3
広島大学医学部第一病理内　ISGC事務局
　Tel:　082-257-5145
　Fax:　082-257-5149
　URL:　http://www.convention.co.jp/isgc

第13回日本消化器癌発生学会総会のご案内

期日： 平成14年9月5日（木）・6日（金）
会場： 千里ライフサイエンスセンター
〒560-0082 大阪府豊中市千里東町1-4-2
TEL：06-6873-2010
（新大阪駅より北大阪急行10分、千里中央駅下車 徒歩3分）
（伊丹空港より大阪モノレール10分、
千里中央駅下車　徒歩3分）

演題予定
① 特別講演：
『Tumor invasion and matrix metalloproteinase』（仮題）
Stephen J Weiss, MD
(Editor-in-Chief, the Journal of Clinical Investigation)
Upjohn Professor of Medicine and Oncology
Comprehensive Cancer Center, University of Michigan

② 公募演題：『消化器癌における基礎と臨床の接点』
消化器癌の発生、分化、進展、転移・浸潤、治療における基礎研究と臨床研究の接点をテーマに広く演題を応募します。それぞれのテーマに沿って、シンポジウムやパネルディスカッションを企画する予定です。

演題募集要項
・募集要項の送付：平成14年2月頃
・演題募集方法：オンライン登録の予定
（詳細は募集要項送付時に）
・演題募集期間：平成14年4月1日～5月20日（予定）
・原則として発表は本学会会員に限ります。
・入会希望者は日本消化器癌発生学会事務局までご連絡下さい。

演題応募、第13回総会に関する問い合わせ先
大阪大学大学院病態制御外科
第13回消化器癌発生学会総会会長　門田守人
（担当：中森正二）
〒565-6871　大阪府吹田市山田丘2-2、E2
Tel：06-6879-3251　Fax：06-6879-3259
E-mail：nakamori@surg2.med.osaka-u.ac.jp

編　集　後　記

本学会の機関誌が英文誌となって、早いもので丸３年が経ちました。この間、会員各位へのご連絡等の際には、その都度書面でご連絡しておりましたが、本年の理事会・総会において会員各位への定期連絡の意味からも、ニュースレターの必要性が検討され、本ニュースレターの発行が決まりました。決定後１カ月で原稿をあげたために、多々お見苦しい点もあるかと思いますが、ご容赦下さい。当面は年２回の発行を目処に準備を進めて参ります。

ところで、このニュースレターが皆様の御手元に届くころには、第３回の国際消化器発癌会議（3rd ICGC）の抄録締め切りが近づいていることと思います。2nd ICGCは不幸なことに日本外科学会と会期が重なり、日本の先生方の参加が少なく、参加した日本人としては少し寂しい学会でした。本会から派生した学会ですので、皆様も万障お繰り合わせの上ご参加頂き、学会を盛り上げて頂ければと思っております。

今後も、会員の皆様からのご意見・ご要望を取り入れ、より良い紙面作りを心がけていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
（文責：学会事務局幹事　清水）

発行　日本消化器癌発生学会事務局
〒113-8655　東京都文京区本郷７-3-1
東京大学医学部附属病院消化管外科・乳腺内分泌外科内
TEL 03-3815-5411（内線35141）FAX 03-5800-9731
発行者　日本消化器癌発生学会
編　集　総務委員会
印　刷　株式会社　靖文社

腫瘍組織にダイレクト・アプローチ

【警　告】
1）メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法、レボホリナート・フルオロウラシル療法（5-FU協和（注射剤）のみ）：メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法、レボホリナート・フルオロウラシル療法は本剤の細胞毒性を増強する療法であり、これらの療法に関連したと考えられる死亡例が認められている。これらの療法は高度の危険性を伴うので、投与中及び投与後の一定期間は患者を医師の監督下に置くこと。また、緊急時に十分措置できる医療施設及び癌化学療法に十分な経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ行うこと。
なお、本療法の開始にあたっては、各薬剤の添付文書を熟読のこと。
2）テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤との併用により、重篤な血液障害等の副作用が発現するおそれがあるので、併用を行わないこと。

世界中で広く使用されている癌化学療法の基本的薬剤
抗悪性腫瘍剤（フルオロウラシル製剤）
劇薬／指定医薬品／要指示医薬品*　（薬価基準収載）
注射療法　5-FU協和
経口療法　5-FU錠50・100 ドライシロップ協和
＊注意－医師等の処方せん・指示により使用すること

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】
1）本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者
2）テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中の患者及び投与中止後7日以内の患者

KYOWA
製造発売元　〔資料請求先〕
協和発酵工業株式会社
東京都千代田区大手町1-6-1
医薬ホームページアドレス
http://iyaku.kyowa.co.jp/

＊「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意」は製品添付文書をご参照ください。
01.06.